

第8回 サステナブル建築賞 一大規模建築部門へ 国土交通大臣賞

主催：一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構

阿南市新庁舎



■市民・議会・行政が連携する姿を外観に現した庁舎

築40年を経た旧庁舎は行政需要の増加に伴う狭小化と老朽化により改善が求められ、南海トラフ地震への備えと、市民サービスの一層の向上を目指して建替えられることになった。現位置での建替のため、まずI期で高層部を建設し、機能移転後II期で低層部を増築する計画とした。低層部を可能な限り広くすることが市民の利便性を高めると考えた。広大な低層部を基壇として、議場、行政棟が立ち上がる特徴的な姿は「市民」「議会」「行政」が三位一体に連携する姿を外観に現したものである。



(阿南市キャラクター あななん)



(低層部東西断面図)

(配置兼1階、5階平面図)



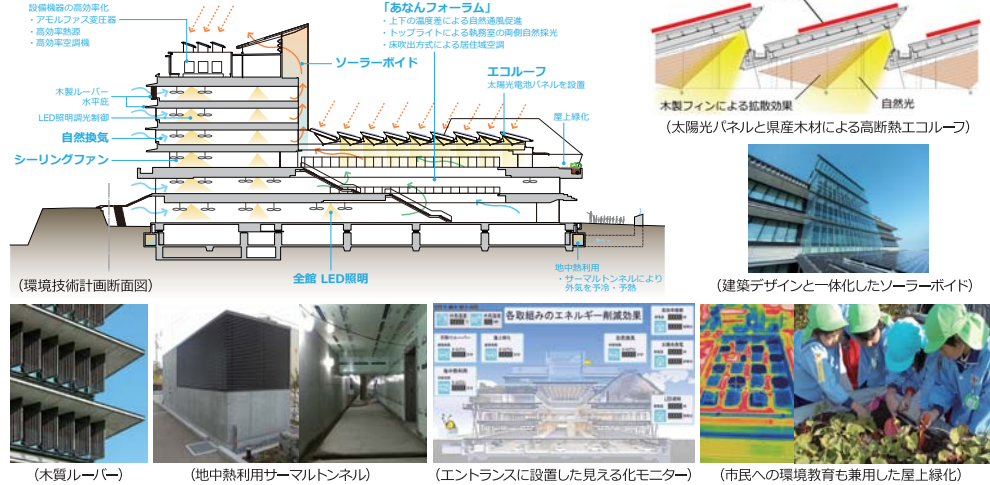
(あななんフォーラム)

(議場)

(執務室)

■市民に解りやすく目に見える環境技術

新庁舎を中心とした業務ビルや商店街、住宅が集まる中心区域における民生部門（業務・家庭）での低炭素型まちづくりを推進し、運用段階での省CO₂成果・知見をより広範な地域へと普及展開することを旨とした計画とした。具体的に、①建築と一体化した負荷削減と自然エネルギー利用、②高効率の設備システム導入による徹底したエネルギー有効利用である。



(環境技術計画断面図)

全館 LED照明

地中熱利用 サーマルトンネルにより外気を予冷・予熱

(木質ルーバー)

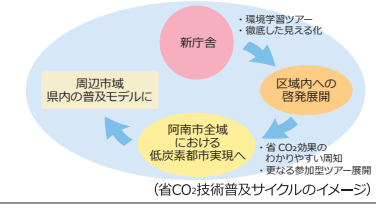
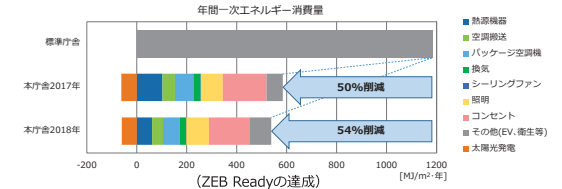
(地中熱利用サーマルトンネル)

(エントランスに設置した見える化モニター)

(市民への環境教育も兼用した屋上緑化)

■ZEB Readyの達成

運用初年度で標準的な庁舎 (1,183MJ/m²・年) から半減、2年目で約54%削減 (539MJ/m²・年) となりZEB Readyを達成し、毎年改善もなされている。また、100kWの太陽光パネルで年間約10%の一次エネルギー消費量を削減していることも確認できた。ソーラーボイドによる自然換気は、換気回数10回/hを超え、280台設置しているシーリングファンの電力消費量は建物全体の0.5%に満たない状況であった。竣工後、2017年5月～2018年3月までに74団体、総数1,266名の見学案内を行った。1階エントランスに設置しているデジタルサイネージにて見える化モニターによる環境性能のリアルタイム表示を行い、環境アピールも実施している。



「阿南市新庁舎」
 建築主：阿南市
 設計者：株式会社日建設計
 施工者：大成建設株式会社
 株式会社朝日工業社
 東光電気工事株式会社
 株式会社四電工

建築概要
 所在地：徳島県阿南市
 構造：S造一部RC造(免震構造)
 階数：地上7階、地下1階
 延面積：20,704.24m²
 竣工年：2017年3月

設備概要
 熱源：水冷フル冷凍機+空冷マルチルチー
 空調：全空気式床吹出空調(低層)
 外調機+ルチーパッケージ空調機(高層)
 シーリングファン280台、自然換気
 電気：全館LED照明+太陽光発電100kW